

① R S ウイルス予防接種について

R S ウイルスは2歳までにほぼ100%の幼児が感染する一般的な呼吸器のウイルスによる病気で、症状としては発熱、鼻水、痰の絡んだ咳をひきおこします。一生に何度も感染しますが、通常は7日から12日ほどで治るようです。ただ、生後間もない赤ちゃんや、基礎疾患のある子供が初めて感染すると、肺炎や気管支炎を起こして重症化することがあります。更に進行すると、喉がゼーゼーするのが聞こえたり、息が苦しそうになり、激しい咳の症状になります。注意すべきは生後6か月未満の乳児では無呼吸や、呼吸困難で、入院が必要になることもあるようです。

感染経路としては咳やくしゃみの飛沫を吸い込む飛沫感染、ウイルスが付いたおもちゃなどを触る接触感染が考えられます。流行時期としては以前は主に冬が中心でしたが、近年は夏ごろからでも流行が始まることも多いようです。

このR S ウイルス感染症は、子供の病気と思われがちですが、免疫力や呼吸機能の低下によって肺炎や気管支炎を引き起こし、インフルエンザ並みに重症化や入院リスクが高い病気です。特効薬はなく、手洗いや60歳以上を対象としたワクチンでの予防が重要です。症状として、高齢者も発熱や鼻水、喉の痛み等普通の風邪のような症状から始まります。

症状が進行すると、強い咳や痰、ゼーゼーする呼吸音、息苦しさなどの下気道炎を引き起こします。回復までに時間がかかり、体力が大きく奪われます。

65歳以上の高齢者や、特に75歳以上の高齢者は用心が必要です。慢性閉塞性肺疾患（COPD）や気管支喘息などの呼吸器の病気を持っている方、慢性心不全などの心臓の病気のある方、糖尿病や慢性腎臓病、免疫力が低下している方、高齢者施設などに入所している方などです。治療法としては述べたように特効薬はなく熱や咳を和らげる対症療法しかありません。このように一見対処がないように見える病気ですが、ワクチンを処方することにより重症化しなくなるという症例や研究結果があります。

そこで、高齢者のR S ウイルスワクチン接種に対する公費助成を提案したいと思いますが、町の考えをお尋ねします。

② 自動車文庫「ほほえみ号」の事業継続について

新しい図書館と健康センターの複合施設建設も日増しに進んでまいりました。外側の囲いも取れて、姿も見えて雄々しく見えるのは町民皆様同一の感を持たれるのは私だけではないと思います。町民の期待は今以上に高まっていくものと感じます。

しかし、新図書館の完成と前後して、図書を届けていたほほえみ号の廃止を耳にするようになりました。ほほえみ号は図書を借りたくても、図書館へ行きづらい方々にとっては大変役に立つ制度だと思います。いわば文化のお届け制度ではないでしょうか。もし、今後このまま廃止の考えならば再考を促したいと思いますが、町の考えをお尋ねします。